

県内の若手肉牛経営者を対象に集合研修を開催

令和2年2月18日（火）、神奈川県内の若手肉牛経営者で組織するグループ「牛匠会」の会員を対象に、農業青年等経営支援事業の集合研修を開催しました。畜産技術センターでは、県畜産会と連携して「牛匠会」の活動を支援しており、集合研修を開催する際には、視察先の提案、日程等の調整補助を実施しています。

今回の視察先は、群馬県渋川市でブランド牛肉を生産する赤城畜産有限会社で、群馬県のみならず、石川県や滋賀県などにも生産拠点を拡大して黒毛和種の大規模経営を展開しています。大規模経営であるがゆえの省力化設備もあり参考になりましたが、それ以上に農場全体の作業体系が比較的シンプルで従業員本位になっている点が印象的でした。視察先の農場では、基本的にすべての作業を朝から夕方までの時間帯に済ませ、夜間の牛舎内見回りやワラ上げ等の作業は従業員に大きな身体的負担がかかるためにやらせないというのがポリシーであるとのことでした。つまり、経営主が作業してみても3Kにあたると感じたことは従業員にはやらせたくない、就業環境を整えることが雇用者に長く務めてもらうための基本であるという理念から実践されていることだそうです。

県内の肥育農場では経営規模がここまで大きくないので、家族以外の人を雇用して農場作業を進めることは多くありませんが、たとえ家族のみで経営している農場であっても、一緒に作業してくれる側の視点に立った農場運営の考え方は大切で、視察に参加した若手経営者も少なからず参考になったようです。

また、ここ数年の集合研修に参加した県内の若手経営者は、視察先の経営者とのつながりを大切にしており、子牛市場や食肉市場で顔を合わせると積極的に情報交換をしています。経営内容や経営環境は違うものの、集合研修が県外の生産者と交流のきっかけになることは、支援した関係機関としてはうれしい限りです。

当所では、若手経営者の経営がより発展するよう、要望に耳を傾けながら、今後も支援を続けていきます。



労働環境に配慮し省力化を進めた牛舎（左）牧場独自の保定枠に感心する参加者（右）